

新聞記事から読む「アイビーファッション」の社会的受容について

—テキストマイニングを通じて—

Social acceptance of “Ivy fashion” reading from article of newspaper
—Using text mining—松ヶ瀬 美歩
Miho Matsugase

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：アイビーファッション，新聞記事，内容分析
Key words : Ivy fashion, Article of newspaper, Content analysis

1. 研究目的

本研究の目的は、新聞記事を用いて、日本における「アイビーファッション」(以下、「アイビー」)の社会的受容について明らかにすることである。

2. 研究実施内容

本研究の対象は、国内主要4紙である朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞に掲載された記事とした。データベースはそれぞれ『聞蔵Ⅱビジュアル Digital News Archives for Libraries』、『毎索』、『ヨミダス歴史館』、『日経テレコン21』である。新聞記事の検索方法は、キーワード検索で、「アイビー」と「ファッション」をAND検索した。また、分析期間は1960年～2017年とした。本研究は、テキストマイニングを用いて解析した。その際、立命館大学の樋口耕一が開発し、内容分析の考え方を生かした、フリー・ソフトウェアのKH Coderを使用した。

記事内容の分析を行う前に、記事件数の推移を調査した。「アイビー」に関する年代別の新聞記事は、1960年代13件、1970年代6件、1980年代35件、1990年代90件、2000年代143件、2010年代91件であった。1960年代を基準とすると、1970年代に一度減少し、1980年代以降増加していた。一方、「ファッション」のみの検索では、1970年代の減少は見られず、1960年代以降増加し続けていた。[図1]

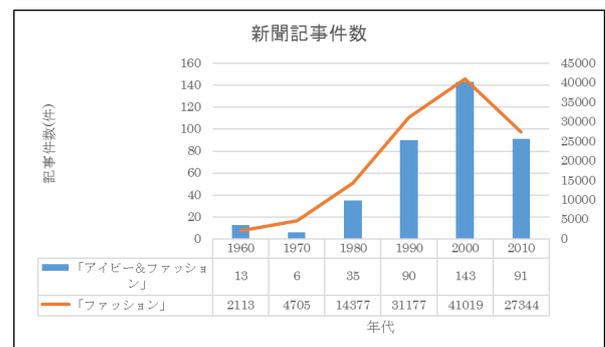


図1. 新聞記事件数の推移

また、1970年代の減少は、「ヒッピー」や「トラッド」という他のファッション領域の記事においても見ることができず、同時に調査した雑誌記事においても、同様の結果が得られた。したがって、「アイビー」に限ったものであると推測することができた。

続いて、新聞記事に現れる語について、「アイビー」の関連語、特徴語、クラスターという3つの視点で、年代別に分析を行った。

分析方法は、KH Coderのコマンドの、語と語の結びつきを探る「共起ネットワーク」、テキスト部分ごとの特徴を探る「関連語検索」と「対応分析」、内容が似た文書の群を探す「クラスター分析」で関連語や特徴語を発見した後、「KWIC コンコーダンス」や「文書検索」で語の用いられ方を確認した。

